



財団法人  
**地球環境戦略研究機関**

2003<sup>年度</sup>年報



## はじめに



(財)地球環境戦略研究機関  
理事長 森島 昭夫

財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）は、アジア太平洋地域における持続可能な開発の実現のための総合的な政策の立案とその具現化を目指し、実践的かつ革新的な政策研究を行う国際的研究機関です。IGESが1998年4月に日本政府と神奈川県との支援によって設立され、研究活動を開始して以来、6年が経過しました。IGESでは3年を1期とする研究計画に基づくプロジェクト方式によって研究を進めており、2003年度は、第2期の最終年ということになります。

IGESが研究期間を1期3年としているのは、外的状況の変化に対応した政策提言を行う実践的戦略的な政策研究を目指すためであり、また、プロジェクトという研究方法をとっているのは、各プロジェクトのメンバー全員がチームの一員としてプロジェクトの研究課題に沿った共通の問題意識をもって、一定期間内に達成すべき具体的な研究課題を設定すると共に、それぞれの専門分野に応じて役割を分担しながら共同研究を行うことが効果的かつ効率的な政策研究の方法であると考えからです。

わが国ではこれまで前例のほとんどないこのような基本的考え方と方式に基づいて第1期研究がスタートしました。試行錯誤の状態ではありましたが、すべての研究員と事務職員の懸命な努力によって研究が進められました。各プロジェクトのメンバーが現地調査を行い、主要な国際会議に参加し、海外でワークショップを積極的に開催するとともに、研究成果を発表してまいりました。これによって、IGESは国際的な研究機関として次第に国内外で認知されるようになってまいりました。その間、1999年には、気候変動枠組み条約政府間パネル（IPCC）の国別温室効果ガスインベントリープログラムに関する技術支援ユニット（TSU）がIGESに置かれて活動を開始し、2000年には北九州市の支援によっ

てIGES北九州事務所が設置されました。

第1期を引継いで2001年に始まった第2期研究では、気候政策、都市環境管理、森林保全、環境教育、企業と環境、長期展望・政策統合、という6つのプロジェクトと、人材開発プログラムが実施されました。このうち企業と環境プロジェクトの研究は、2001年に兵庫県の支援により新たに設置された関西研究センターで行われました。2002年6月には、神奈川県の全面的な支援によって、湘南国際センターにあったこれまでの研究棟の向い側に地上2階地下1階、建坪7100㎡の新研究棟が完成し、IGES本部はここに移転しました。また、2003年6月には、初の海外拠点としてタイのバンコクにプロジェクトオフィスを設置し、同時期に都市環境管理プロジェクトは北九州事務所に移転しています。さらに同年11月には、かねてから準備を進めていた淡水資源管理プロジェクトが新たに発足しました。

第2期プロジェクトの実施に当たっては、戦略研究とは何か、ということに常に念頭におきつつ、より実質的な研究成果を上げるために様々な試みを行ってきました。すなわち、第1期の経験に基づき、ターゲットとする政策決定者のニーズに戦略的に対応するために、ダイアログ（対話）によるニーズの把握および研究成果の普及を図り、また国際機関や国際的なイニシアチブとも連携し、成果がより効果的に政策に反映されるための仕組みづくりをおこないました。具体例をあげれば、アジア太平洋環境開発フォーラム（APFED）の事務局をつとめることで、UNEPおよびUNESCAPとの連携を強め、北九州イニシアチブを通じてUNESCAPに貢献したほか、2003年12月には世界自然保護連合（IUCN）に加盟し、また2004年4月にはアジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）事務局を傘下に入れ、さらに国連大学（UNU）との関係も強化しました。

特に、2003年4月に国連経済社会理事会（ECOSOC）の特殊協議資格を取得し、NGOとして国際舞台で活動できることとなったことは特筆されると思います。このような努力の結果、IGESは次第に実践的な戦略研究を行う研究所としてその活動が認知されるようになり、第2期において国際的な政策研究機関としての本格的な第一歩を踏み出すことができたと考えます。

さて、第2期では、研究機関としてのIGESが、第1期で築いた基礎の上において、国際的な水準の研究成果を生み出せるかどうかが問われました。その成果については、2004年3月に東京で開催した「第2期戦略研究成果報告会」において概要を発表したところですが、現在各プロジェクトの研究成果について、外部の研究諮問委員と外部評価委員による詳細な外部評価を逐次実施しているため、それらが終了次第おそくとも2005年3月末までには、IGES第2期戦略研究最終報告書を取りまとめて公表することとしています。

IGESでは、研究活動が本格化した第2期を機会に外部評価制度を取入れることにしました。プロジェクトの目標の立て方、実施の方法の適切性、研究成果のレベルなどについて評価基準を設け、外部評価委員による厳正

な評価を受けることは、IGESの研究水準を国際レベル以上に向上させ保つために不可欠な制度です。

2004年4月からは新たに第3期のプロジェクトが始動しています。IGESでは、立法者の政策形成と企業や市民の行動に研究成果を反映させるために、多方面に向けた積極的なアウトリーチ活動を行っておりますが、特に今期からはその機能をこれまで以上に拡充・強化するため、新たにアウトリーチ・プログラムを設置し、各種広報媒体の見直し、刷新を図っています。その一環としてこの年報についても、簡潔化、カラー化し、より親しみをもって見てもらえるように工夫しました。

最後になりますが、私は、IGESのすべての研究員と事務職員が、環境をめぐる世界の動きに対して共通の問題認識を持って、引き続き共同して活動を展開していくことによって、今後ともよりいっそう高い水準の戦略研究を推進していくものと信じています。

今後ともIGESの研究活動に変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

森 島 昭 夫

# IGES 2003年度 年報

<b>I</b>	<b>IGESのあらまし</b> .....	6
<b>II</b>	<b>各研究プロジェクトの活動報告</b>	
	気候政策プロジェクト（CDM含む） .....	10
	森林保全プロジェクト .....	14
	都市環境管理プロジェクト .....	16
	淡水資源管理プロジェクト .....	18
	企業と環境プロジェクト .....	20
	環境教育プロジェクト .....	22
	長期展望・政策統合プロジェクト（EI含む） .....	24
<b>III</b>	<b>戦略研究の具現化に向けた活動</b>	
	COP9 サイドイベント1（CP） .....	28
	COP9 サイドイベント2（CDM） .....	28
	地球大気管理 ― ベター・エア・クオリティ（BAQ）2003 .....	29
	エコアジア2003 .....	29
	APFED4 .....	30
	2003年度「産業と環境」国際シンポジウム .....	30
	アジア水資源パートナーシップ（WEPA）準備ワークショップ .....	31
	第2期戦略研究成果報告会 .....	31
	国際シンポジウム .....	32
<b>IV</b>	<b>人材開発プログラム</b> .....	34
<b>V</b>	<b>IPCC/TSU（国別温室効果ガスインベントリー プログラム技術支援ユニット）</b> .....	38
<b>VI</b>	<b>その他の活動</b>	
	IGESバンコク事務所の開設 .....	42
	第3回トヨタステークホルダーダイアログ .....	44
	情報収集・発信事業 .....	45
	賛助会員との交流事業 .....	47
	<b>資料編</b>	
	◆財務諸表 .....	50
	◆財団概要（組織、役員等一覧） .....	53

